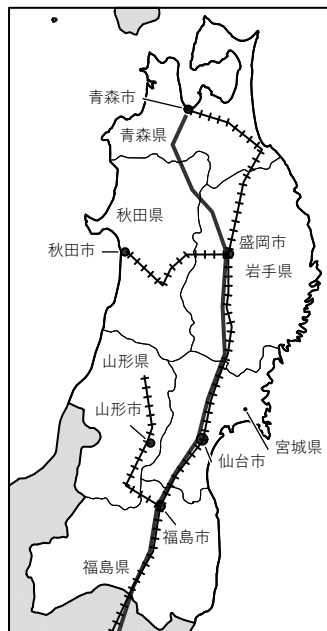


1 全体像	2～5 自然と農業	6・7 伝統行事と食	8・9 伝統産業	10・11 三陸の海と記憶	12 まとめ
-------	-----------	------------	----------	---------------	--------

1 この単元の全体像 — 東北地方の生活・文化は、どのようにして受け継がれてきた？

このページのゴール 東北地方の6県と、広さ・人口・交通の特色をざっと言える

関東地方では「交通・通信」を中心に見ました（関東地方で学んだ）。東北地方では「生活・文化」（祭り・料理・家・工芸品・災害の教えなど、人々のくらしの中で受け継がれてきたもの）が、どんな自然や産業の中で生まれ、どう受け継がれてきたかを見ます。



+++ 新幹線 — 東北自動車道

線はおよその道筋

地圖：Natural Earth

東北地方の6県（人口・65歳以上は2025年）

県	県庁所在地	人口	2020年から	65歳以上
青森県	青森市	約114万人	−8.0%	36.3%
岩手県	盛岡市	約112万人	−7.1%	35.8%
宮城県	仙台市	約223万人	−3.3%	29.8%
秋田県	秋田市	約88万人	−8.1%	40.0%
山形県	山形市	約99万人	−7.1%	36.1%
福島県	福島市	約171万人	−6.7%	34.1%
全国	—	約1億2,297万人	−2.5%	29.4%

数で見る東北地方

項目	数・順位
面積	全国の約18%（2025年）。岩手県は北海道に次ぐ全国2位
人口	約807万人で全国の約7%、約15人に1人（2025年）。6県とも2020年より減った
仙台市	約110万人（2025年の速報）。東北地方でただ1つの、人口100万人をこえる市

減る人口と高齢化 中1で学んだ少子高齢化と過疎が進んでいます。2020年からの人口の減り方は、秋田県（8.1%）が全国でいちばん大きく、次いで青森県（8.0%）・岩手県（7.1%）です。65歳以上の割合は、秋田県が40.0%で全国1位です（2025年）。

人口は鉄道と道路の通る所に 山地が多い東北地方では、主な都市は山地の間の平野や盆地にあります。6つの県庁所在地は、どれも新幹線の駅がある都市です。東北新幹線は1982年に大宮～盛岡が開業し、2010年に新青森まで開業して全線がつながりました。東北自動車道は1987年に全線が開通しました。

注意 ×人口がいちばん多いのは、面積がいちばん広い岩手県 → 宮城県（約223万人）

この単元の問い：東北地方の生活・文化は、どのようにして受け継がれてきた？（答えは12ページ）

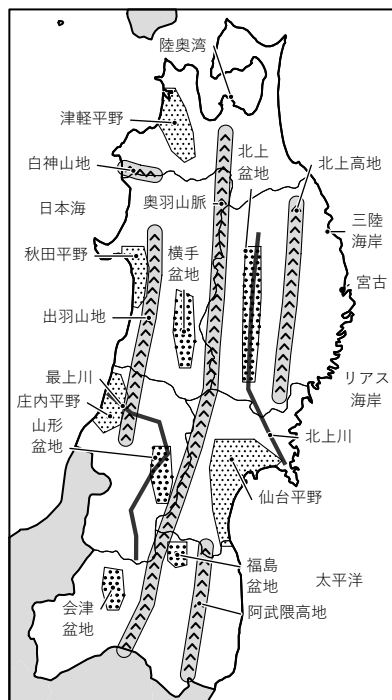
合言葉 「6県で日本の約2割の広さ、人口は約15人に1人」

この単元の解説記事（図と例題つき）：[かてきょノート \(katekyo-note.com\)](https://katekyo-note.com) [https://katekyo-](https://katekyo-note.com)

[note.com/%e3%80%90e4%b8%ad2%e7%a4%be%e4%bc%9a%e3%83%bb%e5%9c%b0%e7%90%86%e3%80%91%e6%97%a5%e6%9c%ac%e3%81%ae%e8%ab%b8%e5%9c%b0%e5%9f%9f%e2%](#)

2 東北地方の地形には、どんな特色がある？

このページのゴール 山地・盆地・2つの大きな川・三陸海岸を地図で言える

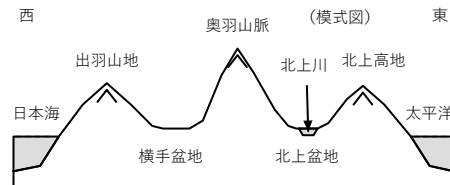


山地・山脈
 平野
 盆地
 川

地図：Natural Earth

東北地方のまん中を南北に連なる奥羽山脈は、東北地方を太平洋側と日本海側に分ける

① **3列の山地と盆地** 奥羽山脈の東には北上高地・阿武隈高地、西には出羽山地が、平行に連なります。山地の間には、北上盆地・横手盆地・山形盆地・会津盆地・福島盆地などの盆地（まわりを山に囲まれた平地。中1で学んだ）があります。



② **2つの大きな川** 北上川は、岩手県のほぼ中央を南に流れ、宮城県に入って石巻湾などに注ぎます（長さ249km。「東北第一の大河」）。最上川は、山形県だけを流れ、酒田市で日本海に注ぎます（長さ229km。日本三大急流の1つ）。最上川の下流の、日本海側にある平野が庄内平野です。

山地が海にしずみ、谷だった所に海水が入りこんでできた、出入りの複雑な海岸をリアス海岸という（中1で学んだ）

③ **三陸海岸** 青森県・岩手県・宮城県の太平洋ぞいにのびる三陸海岸は、南北に約250kmあります。岩手県宮古市より北は切り立った断崖がまっすぐ続き、南がリアス海岸です。

④ **白神山地** 青森県と秋田県にまたがる白神山地には、ブナの原生的な森が大きく残っています。1993年に、屋久島とともに日本で初めて世界自然遺産になりました。

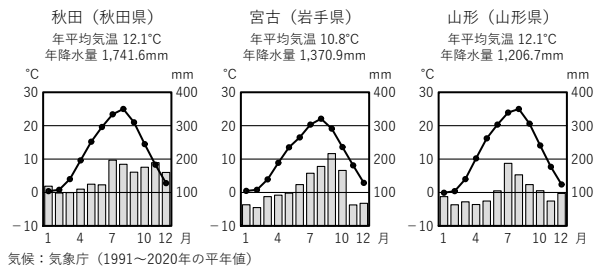
自然とくらし：山地の間の平野や盆地に人が住み、大きな川の水で米をつくる

注意 × 三陸海岸は、全部がリアス海岸 → リアス海岸は宮古市より南。北は断崖が続く

合言葉 「背骨は奥羽山脈、間に盆地、海岸は三陸」

3 東北地方の気候は、太平洋側と日本海側でどうちがう？

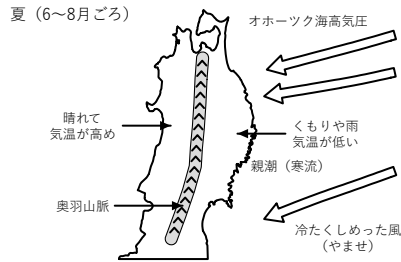
このページのゴール 冬の雪と夏のやませで、太平洋側と日本海側のちがいを言える



冬は北西から季節風が吹き、日本海側に多くの雪を降らせる（中1で学んだ）

その年の米のとれ具合を、平年を100として表した数を作況指数といいます。

① 5つの地点（1991～2020年の平年値）	冬（12～2月）の降水量	年の降雪の深さの合計	7月の平均気温
秋田（日本海側）	約377mm	273cm	23.4℃
青森（北のはし）	約394mm	567cm	21.8℃
山形（内陸の盆地）	約248mm	285cm	23.9℃
宮古（太平洋側）	約186mm	91cm	20.3℃
仙台（太平洋側）	約120mm	59cm	22.9℃



夏（6～8月ごろ）に、オホーツク海の高気圧から太平洋側へ吹く、冷たくしめった北東の風をやませという。冷たい親潮の上を通ってくる

夏に気温が上がらず、米などの作物が育たない災害を冷害といいます（中1で学んだ）。

② 日本海側は影響が小さい やませは奥羽山脈にさえぎられるので、日本海側はほとんど影響を受けず、晴れる日が多く気温も高くなります（7月の平均気温は、秋田が宮古より約3℃高い）。

③ 1993年の冷害 この年、東北地方の夏の気温は1945年以降でいちばん低くなりました。太平洋側の県ほど作況指数が低く、冷害が大きかったことが分かります。

作況指数（1993年）	青森県	岩手県	宮城県	福島県	山形県	秋田県	東北	全国
平年を100とした数	28	30	37	61	79	83	56	74

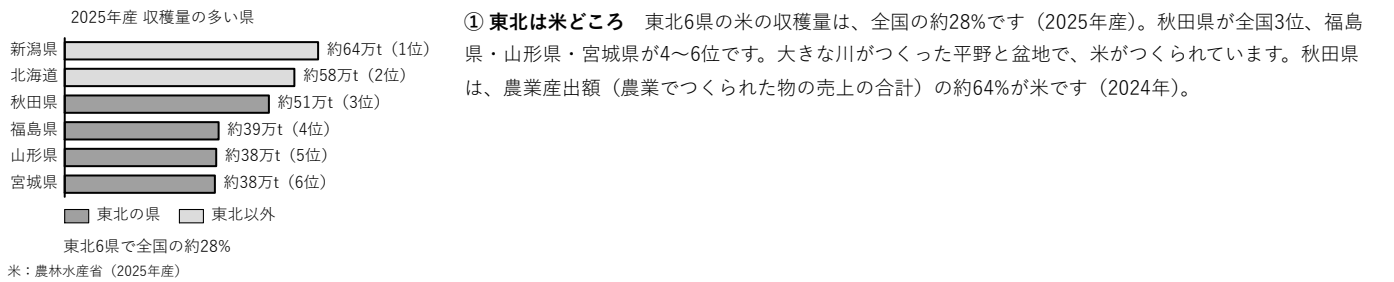
自然とくらし：冬は日本海側に雪、夏は太平洋側にやませ。米づくりは寒さとのたたかい

注意 × やませは冬に日本海側に吹く風 → 夏に太平洋側に吹く × 雪がいちばん多いのは秋田 → 5地点では青森

合言葉 「冬は日本海側に雪、夏は太平洋側にやませ」

4 東北地方は、寒さがあるのに、なぜ米どころになった？

このページのゴール 東北地方の米の量と、寒さに負けない米づくりのくふうを言える



産地と品種の名前をつけて売られる米を**銘柄米**（ブランド米）という（中部地方で学んだ）

② 県ごとの主な銘柄米

県	主な銘柄米
青森県	青天の霹靂・まっしぐら
岩手県	銀河のしずく・金色の風
宮城県	ひとめぼれ・ササニシキ・だて正夢
秋田県	あきたこまち・サキホコレ
山形県	つや姫・はえぬぎ・雪若丸
福島県	コシヒカリ・天のつぶ

性質のちがう品種をかけ合わせて、よりよい品種をつくることを**品種改良**という

③ 寒さに強い「ひとめぼれ」ができるまで

- ① 1980年、東北地方は冷害で米が大きく減った（作況指数 78）
- ② 宮城県の古川農業試験場が、1981年から寒さに強い品種づくりを始めた
- ③ 1982年に「コシヒカリ」と「初星」をかけ合わせた
- ④ 1991年に「ひとめぼれ」が登録された。寒さへの強さは「ササニシキ」よりはっきり強い
- ④ 冷害とのたたかいは続く 3ページの1993年のように、やませの強い年は、今も米が減ることがあります。各県は、寒さに強い品種の開発を続けています。

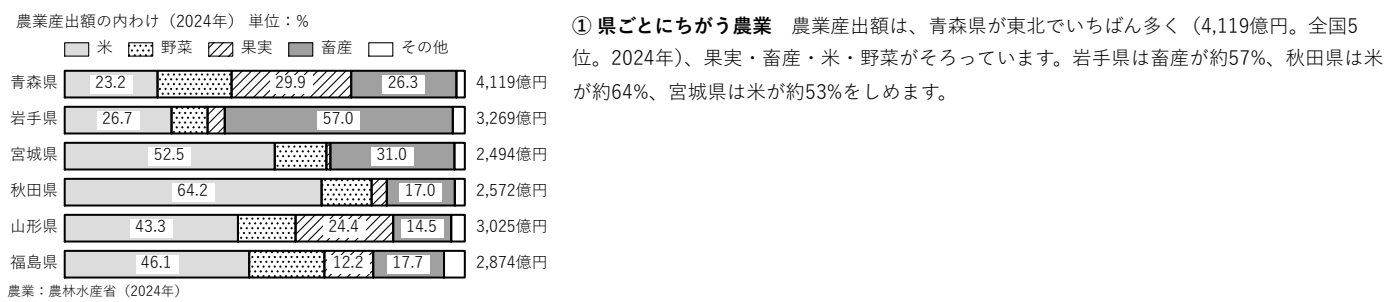
受け継がれるわけ：米が東北のくらしの中心。寒さに負けない品種をつくって米づくりを守ってきた

注意 × 米の収穫量が全国1位なのは秋田県 → 1位は新潟県、2位は北海道。秋田県は3位（2025年産）

合言葉 「寒さとたたかい、品種で守る東北の米」

5 東北地方では、米のほかに何がつくられている？

このページのゴール りんご・さくらんぼ・ももと畜産の産地を、県と結びつけて言える



② 主な果物の産地（2024年産）

果物	東北の県と、全国にしめる割合・順位
りんご	青森県 約61%で1位（2位は長野県、3位は岩手県）
おうとう（さくらんぼ）	山形県 約75%で1位
西洋なし	山形県 約70%で1位
もも	福島県 約27%で2位（1位は山梨県）

川が山地から平地に出る所に、土砂が積もってできた扇のような形のゆるやかな斜面を扇状地という。水はけがよく、果樹園に向く（中1で学んだ）

③ 盆地と扇状地 東北地方の内陸には盆地が多くあります（2ページ）。福島盆地のふちには、扇状地が並んでいます。

牛・ぶた・にわとりなどを飼い、肉・牛乳・たまごなどを生産する農業を畜産という

④ 畜産と野菜 岩手県は、ブロイラー（肉用のにわとり）の飼う数が全国3位（約16%）です（2024年）。青森県は、にんにく（全国の約67%）とごぼう（約40%）が全国1位です（2024年）。

受け継がれるわけ：盆地や県ごとの自然を生かした果物や畜産が、それぞれの県の名物として続いている

注意 ×さくらんぼ（おうとう）の生産が全国1位なのは青森県 → 山形県（約75%）。青森県はりんご（約61%）

合言葉 「青森りんご、山形さくらんぼ、岩手は畜産」

6 東北地方の祭りや行事には、どんな願いがこめられている？

このページのゴール 三大祭りなどの行事と、米づくり・冬のくらしとの結びつきを言える

昔から地域の人々が受け継いできた祭りや行事を伝統行事という

① 東北三大祭り

祭り	県と市	どんな祭り	人出（2024年）
青森ねぶた祭	青森県青森市	大きな人形の形の灯籠（ねぶた）が町をねり歩く。7月7日の眠気を送り出す風習から発展した	約98万人
<u>秋田竿燈まつり</u>	秋田県秋田市	提灯をたくさんつるした長い竹竿（竿燈）を、手や額・肩・腰にのせてあやつる	約122万人
仙台七夕まつり	宮城県仙台市	仙台藩のはじめのころから続く七夕の行事	約204万人

人出は国土交通省東北運輸局の表（主催者などの数。数え方は祭りごとにちがう）。盛岡さんさ踊り（岩手県）は約111万人（2024年）。



秋田竿燈まつり
(秋田県秋田市)

写真：掬茶（CC BY-SA 4.0）。Wikimedia Commons より、白黒にして切り取った

② 竿燈は稲穂 竿燈全体を稲穂に、提灯を米俵に見立て、五穀豊穡（米などの作物がよく実ること）を祈ります。もとは、夏の病気や悪いものをはらう「ねぶり流し」の行事でした。

人々の生活の中で受け継がれてきた祭りや行事などのうち、国がとくに大切だとして指定したものを重要無形民俗文化財という

青森ねぶた祭・秋田竿燈まつりは1980年、男鹿のナマハゲは1978年に指定されました。

③ 冬の行事

行事	内容
<u>男鹿のナマハゲ</u> (秋田県男鹿市)	大晦日の夜、面をかぶり、わらの衣装を着た若者が家々をまわり、怠け者をいましめる。2018年にユネスコ無形文化遺産になった
<u>横手のかまくら</u> (秋田県横手市)	雪でつくった室（かまくら）の中に水神様をまつる、小正月の行事。約450年の歴史があるといわれる

観光客をよぶもとなる自然や文化を観光資源といいます。東北三大祭りには毎年多くの人が訪れ、祭りは地域の大切な観光資源になっています。

受け継がれるわけ：豊作や無病を願う祭りが地域の誇りとなり、観光資源にもなって続く

注意 × 竿燈まつりは、冬の雪の中で行う行事 → 夏の祭り。雪の室の行事は横手のかまくら（冬）

合言葉 「祭りに願う、米の豊作」

7 東北地方の料理や家には、どんなくふうがある？

このページのゴール 郷土料理や家の形が、米・やませ・雪と結びついていることを言える

その地域でとれる物を使い、地域の人々に受け継がれてきた料理を郷土料理という

① 東北の郷土料理と、結びつく自然・農業

料理	県	結びつく物	くわしく
<u>きりたんぼ鍋</u>	秋田県	米	ご飯をつぶして棒にさして焼いた物を、鳥の鍋に入れる。山で炭焼きなどをした人が焼いて食べたのが始まりと伝えられる
芋煮	山形県	川	秋に河原で鍋を囲む芋煮会。最上川の舟運の船頭が荷待ちの間に鍋を囲んだのが始まりといわれる
はらこ飯	宮城県	サケ	宮城県は、サケがのぼる川が多い
せんべい汁	青森県	小麦	南部せんべいを汁に入れる（八戸地方）
ひつつみ	岩手県	小麦	米がなくなる4～7月に、小麦を食べて秋の新米までつないだ

やませと粉食 小麦・そば・雑穀などを粉にして食べる食べ方を粉食といいます。青森県の南部地方や岩手県の沿岸は、やませの影響で米づくりがむずかしく、粉食の文化が根づきました。せんべい汁・ひつつみは、その料理です。

② **冬の保存食** 長い冬などにそなえて、長くもつようにくふうした食べ物を保存食といいます。秋田県は冬の日照時間が短く、大根を天日で干しても乾く前に凍るので、囲炉裏の上でいぶして干すようになりました（いぶりがっこ）。

③ **雪国のくらし** 国が法律で指定する、雪がとくに多い地域を豪雪地帯といいます。青森県・岩手県・秋田県・山形県は県の全部が豪雪地帯で、国土の約51%が豪雪地帯です。



南部曲り家
(岩手県盛岡市)

写真：掬茶 (CC BY-SA 4.0)。Wikimedia Commons より、白黒にして切り取った

母屋と馬屋が1つにつながったL字型の家を曲り家（南部曲り家）という

岩手県の旧盛岡藩の地域に多い家です。かまどや炉の煙が馬屋の屋根から出ていくので、馬の背や屋根裏の干し草を乾かせました。遠野市の旧千葉家住宅は、重要文化財になっています。

受け継がれるわけ：米・やませ・長い冬という自然の中でくらすくふうが、料理や家の形になって伝わる

注意 × いぶりがっこは夏の日ざしで乾かす → 冬は乾かないので、囲炉裏の上でいぶして干した

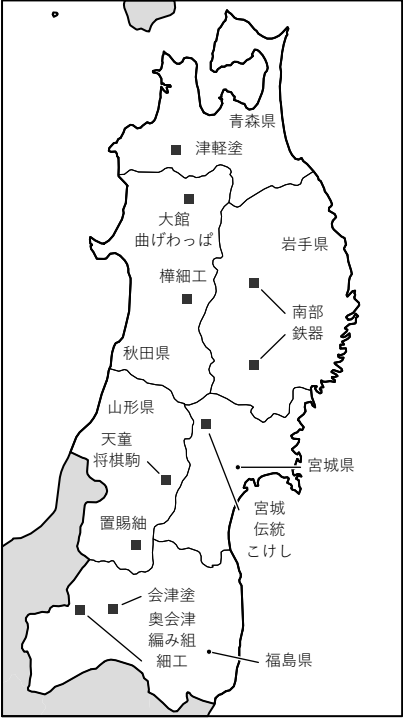
合言葉 「米と雪とやませが、料理と家の形を決めた」

8

東北地方で、伝統的工芸品が多くつくられてきたのは、なぜ？

このページのゴール

伝統的工芸品を、原料・藩の副業・冬の手仕事と結びつけて言える



■ 主な伝統的工芸品（場所はおよそ）
地図：Natural Earth

国が指定した、昔からの技術や原料で主に手作業でつくる、ふだんの生活で使う物を伝統的工芸品という（近畿地方で学んだ）

東北6県で23品目あります（全国は244品目。2025年10月末）。その地域に根づいて発達してきた産業を地場産業といいます（国の指定は要らない。中部地方で学んだ）。



南部鉄器の鉄瓶
（岩手県）

写真：Misakubo（CC BY-SA 3.0）。
Wikimedia Commons より、
白黒にして切り取った

農作業がひまになる時期を農閑期といい、雪の多い東北地方では冬が農閑期です。本業のほかにする仕事を副業といいます。

伝統的工芸品が生まれたわけ（藩は、江戸時代に大名が治めた領地）

わけ	例
地元の原料	南部鉄器 （岩手県盛岡市・奥州市）：原料の砂鉄や木炭にする木が豊富で、南部藩が京都から職人を招いた／大館曲げわっぱ：天然の秋田杉／樺細工：ヤマザクラの樹皮
下級武士の副業	大館曲げわっぱ・樺細工：下級武士の副業として広まった／天童将棋駒（山形県天童市）：江戸時代の後期、お金に苦しんだ藩が、下級武士に内職としてすすめた
雪の冬の手仕事	奥会津編み組細工（福島県三島町）：雪の季節の農閑期の副業。山の植物を編む／置賜紬（山形県）：雪と寒さのきびしい地方から生まれた

受け継がれるわけ：地元の原料と、藩の副業や冬の手仕事でみがいた技が続いた

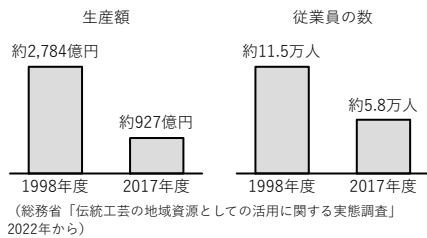
注意

× 伝統的工芸品は、県が指定する → 国が指定する

合言葉 「地元の原料と冬の手仕事が、伝統の技に」

9 伝統産業や東北地方の産業は、どのように変わってきた？

このページのゴール 伝統的工芸品の課題と海外への広がり、出稼ぎから地元の工業への変化を言える



① **伝統的工芸品の課題** 暮らし方が変わって使う人が減り、全国の伝統的工芸品の生産額は、約2,784億円（1998年度）から約927億円（2017年度）へ、約3分の1に減りました。つくる人も、同じ年度の間に約11.5万人から約5.8万人へ、約半分になりました（総務省）。後をつぐ人（後継者）を育てることが課題です。

産地で長く仕事をしてきた職人の中から、試験で認められた人を伝統工芸士という。後継者を育てる役目がある

② **世界へ広がる南部鉄器** 人・物・お金・情報が国をこえて行き来し、世界の結び付きが強まることをグローバル化といいます。南部鉄器では、色あざやかでおしゃれなデザインの急須がヨーロッパで人気です。中国では、湯をわかすとお茶がおいしくなるといわれ、南部鉄瓶が人気で、2010年には上海万国博覧会にも出しました（岩手県）。

冬など農作業の少ない時期に、家をはなれて都市などで働くことを出稼ぎという

③ **出稼ぎから、地元で働く場へ**（岩手県）

- 1960年代ごろ、関東地方などで人手が求められ、出稼ぎに出る農家がふえた
- 岩手県の出稼ぎは、1972年に約4万5千人で、いちばん多かった
- その後、地方に工場などができ、地元で働ける場がふえた
- 2021年度には534人に減った

④ **東北地方の工業** 東北地方にも工業団地（関東地方で学んだ）がつくられ、電子部品（電気製品の中で働く小さな部品）などの工場が進出しました。2023年の東北6県の製造品出荷額等は約20.9兆円で、全国の約5.6%です。業種は電子部品が約16%で最も多く、輸送用機械（自動車など）が約12%、食料品が約11%です。秋田県は、電子部品が約32%をしめます。

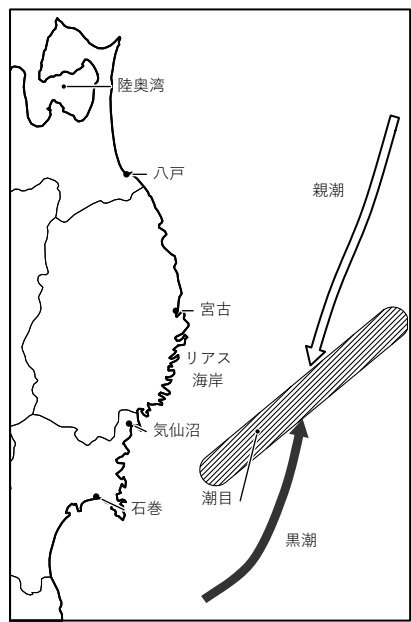
受け継がれるわけ：使う人が減る中で、新しいデザインや海外への販売、後継者を育てる取り組みで技をつないでいる

注意 × 東北地方の工業で、出荷額がいちばん多いのは自動車（輸送用機械） → **電子部品（約16%。2023年）**

合言葉 「伝統の技を、新しいデザインで世界へ」

10 三陸の海は、なぜよい漁場になっている？

このページのゴール 潮目とリアス海岸の湾を生かした漁業・養殖を言える

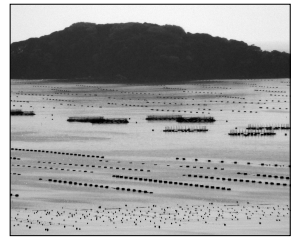


⇒ 寒流 → 暖流 潮目のあたり ● 主な漁港
記号の場所はおおよそ
地図：Natural Earth

冷たい海流を寒流、暖かい海流を暖流という。三陸の沖では、寒流の親潮（千島海流）と、暖流の黒潮（日本海流）が出会う（中1で学んだ）

寒流と暖流が出会い、混じり合う所を潮目という（中1では「ぶつかる所」と学んだ）

- ① **よい漁場になるわけ** 栄養の多い親潮と暖かい黒潮が混じるので、プランクトンが多く生まれ、それを食べる魚が集まります。世界でも有数の漁場です。
- ② **リアス海岸の湾と養殖** 魚や貝・海藻を、いけすやいかだなどで人の手で育てて出荷する漁業を養殖業といます。湾の中は波がおだやかなので、かき・ほたて・わかめ・ぎんざけなどの養殖が行われています。



湾に浮かぶ養殖のいかだ
(宮城県南三陸町)

写真：Sakaori (CC BY 3.0)。Wikimedia Commons より、白黒にして切り取った

- ③ **三陸の漁港** 水揚げ量の全国順位は、石巻（宮城県）が7位、気仙沼（宮城県）が9位、八戸（青森県）が10位です（2024年）。

東北の養殖（2024年）

品目	県	全国の順位
<u>ぎんざけ</u>	宮城県	1位（全国の約78%）
かき	宮城県	2位（1位は広島県）
わかめ	岩手県	2位
こんぶ	岩手県	2位（1位は北海道）
ほたて	青森県	2位（1位は北海道）

受け継がれるわけ：潮目の豊かな海とおだやかな湾が、漁業と養殖のくらしを支えている

注意 × 潮目は、寒流どうしが出会う所 → 寒流（親潮）と暖流（黒潮）が出会い、混じり合う所

合言葉 「親潮と黒潮が出会う潮目、湾では養殖」

11 東北地方の人々は、災害の教えをどのように受け継いできた？

このページのゴール 東日本大震災と、昔からの津波の教えを伝える石碑・遺構・地域づくりを言える

海底で起きた大きな地震などで海水がもち上がり、陸に押しよせる大きな波を津波といいます。リアス海岸の湾の奥では、津波が高くなりやすいです（中1で学んだ）。

① **東日本大震災** 2011年3月11日、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が起き、最大震度7を記録しました。この地震と、大きな津波による災害を**東日本大震災**といいます。死者は19,787人、行方不明者は2,549人です（2026年3月1日現在。震災関連死をふくむ）。今も約2.5万人が避難しています（2026年8月1日現在）。

② **三陸をおそった主な津波** 1896年の明治三陸地震では死者が約2万2千人、1933年の昭和三陸地震では死者・行方不明者が3,064人でした。岩手県宮古市では、400年間に被害が記録された地震津波が15回（およそ25年に一度）ありました。

③ **大津浪記念碑** 岩手県宮古市の姉吉地区にある**大津浪記念碑**には、「此処より下に家を建てるな」と刻まれています。明治と昭和の津波で集落が2度とも全滅し、人々は高台に家をつくり直しました。この教えを守り、東日本大震災では家の被害がありませんでした。



記念碑



自然災害伝承碑（2019年から）



震災遺構のたろう観光ホテル（岩手県宮古市）

写真：Yasu（CC BY-SA 3.0）。Wikimedia Commons より、白黒にして切り取った

④ **震災遺構** 災害で被害を受けた建物を残し、教訓を伝える物を**震災遺構**といいます。たろう観光ホテル（岩手県宮古市田老）は4階まで浸水しました。荒浜小学校（宮城県仙台市）には320人が避難し、2階まで津波が来ました。

⑤ **自然災害伝承碑** 過去の自然災害の規模や被害を伝える石碑やモニュメントを**自然災害伝承碑**といい、2019年に地図記号がつくられました（全国で2,481基。2026年9月）。

⑥ **地域づくり** 高台に移る宅地（約1.8万戸）と災害公営住宅（約3.0万戸）が2020年に完成し、三陸沿岸道路（仙台～八戸359km）は2021年に全線開通しました。2011年には、東北の6つの祭りが仙台に集まる東北六魂祭が始まり、復興を願いました。

受け継がれるわけ：石碑・遺構・語り伝える活動で、災害の教えを次の世代へつないでいる

注意 × 津波の教えの石碑は、東日本大震災のあとに初めてできた → **大津浪記念碑のように、東日本大震災の前からあった**

合言葉 「石碑と遺構で、津波の教えを次の世代へ」

12 東北地方の生活・文化は、どのようにして受け継がれてきた？

このページのゴール 東北地方の生活・文化が受け継がれてきたわけを、表にまとめて説明できる

2～11ページで見た生活・文化を、表にまとめます。

受け継がれてきた生活・文化

生活・文化	例	生まれたわけ（自然・産業）	受け継ぐ取り組み
祭りと行事	ねぶた・竿燈・七夕・ナマハゲ・かまくら	米の豊作や病気をはらう願い・雪の冬	ねぶた・竿燈・ナマハゲは国の重要無形民俗文化財に指定。観光資源として多くの人が訪れる
料理と家	きりたんぼ鍋・芋煮・せんべい汁・いぶりがっこ・曲り家	米・川・やませ（粉食）・長い冬（保存食）	郷土料理として地域で受け継がれる。曲り家は重要文化財になった例がある
伝統的工芸品	南部鉄器・大館曲げわっぱ・樺細工・天童将棋駒	地元の原料・藩の副業・雪の冬の手仕事	伝統工芸士・新しいデザインで海外へ
海とくらし・災害の教え	養殖・大津浪記念碑・震災遺構	潮目とリアス海岸・くり返す津波	石碑・遺構・高台への移転

答えの文の作り方 「どんな自然・産業の中で → どんな生活・文化が生まれ → どのように受け継がれているか」の順に、1文でつなぎます。

生活・文化	1文で言う例
祭りと行事	米づくりを中心にくらししてきたので、豊作を願う竿燈などの祭りが生まれ、重要無形民俗文化財や観光資源として受け継がれている。
伝統的工芸品	地元の原料や雪の冬の手仕事で技がみがかれたが、使う人が減ったので、伝統工芸士が後継者を育て、新しいデザインで海外へも広がっている。
災害の教え	三陸の海ではくり返し津波がおそってきたので、石碑・遺構・高台への移転で、災害の教えを次の世代へ伝えている。

この単元の問いの答え

- ① 東北地方は、冬の雪や夏のやませなど、きびしい自然の中で、米づくりを中心にくらししてきた
- ② その中で、豊作を願う祭り、米や粉・保存食を使う料理、冬の手仕事の工芸品など、自然とくらしに結びついた生活・文化が生まれた
- ③ 地域の人々が受け継ぎ、国の指定・観光・海外への販売・後継者を育てる取り組みで、今につないでいる
- ④ 人口の減少と高齢化が進む中、くり返す津波の教えも、石碑や遺構で次の世代へ伝えている

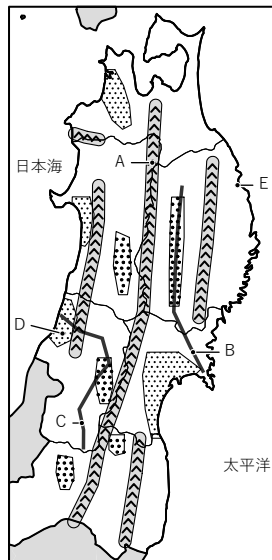
次の学習：次は北海道地方を学びます

合言葉 「きびしい自然の中のくふうが、生活・文化になって受け継がれる」

確認問題① 全体像・地形・気候

答えと解説は17・18ページ（9枚目の紙）にあります。【 】は、わからないときに読み直すページです。

1 全体像と地形について、次の問に答えなさい。【1・2ページ】



地図：Natural Earth

図のA～Eにあてはまる名前を書きなさい。Aは山脈、Bは太平洋側を流れる川、Cは日本海に注ぐ川、Dは平野、Eは海岸です。

- (1) A _____
- (2) B _____
- (3) C _____
- (4) D _____
- (5) E _____

(6) 東北地方でただ1つの、人口が100万人をこえる市（2025年）の名前を書きなさい。 _____

(7) 青森県と秋田県にまたがり、ブナの原始的な森が1993年に日本で初めて世界自然遺産になった山地を選びなさい。

ア 出羽山地 イ 白神山地 ウ 阿武隈高地 _____

2 気候について、次の問に答えなさい。【3ページ】

(1) 夏に、東北地方へ吹く、冷たくしめった北東の風を何といいますか。 _____

(2) 夏に気温が上がらず、米などの作物が育たない災害を何といいますか。 _____

(3) その年の米のとれ具合を、平年を100として表した数を選びなさい。

ア 収穫量 イ 産出額 ウ 作況指数 _____

(4) 1993年、東北地方の夏の気温がとても低くなった年に、米のとれ具合が平年より大きく下がった県が多かったのは、太平洋側と日本海側のどちらですか。

ア 太平洋側 イ 日本海側 _____

(5) 夏、冷たくしめった風の影響を、日本海側があまり受けないわけとして正しい文を選びなさい。

ア 夏も北西の季節風が吹くから イ 東北地方のまん中の山脈にさえぎられるから ウ 太平洋側より海から遠いから _____

確認問題② 米づくり・伝統行事・料理と雪国のくらし

答えと解説は17・18ページ（9枚目の紙）にあります。【 】は、わからないときに読み直すページです。

3 米づくりと果樹・畜産について、次の問いに答えなさい。【4・5ページ】

- (1) 産地と品種の名前をつけて売られる米を何とといいますか。 _____
- (2) 宮城県の試験場が、寒さに強い品種としてつくり、1991年に登録された米を選びなさい。
ア ヒトめばれ イ ササニシキ ウ あきたこまち _____
- (3) 全国の生産量の約61%（2024年産）を青森県がつくる果物を選びなさい。
ア もも イ りんご ウ 西洋なし _____
- (4) 全国の生産量の約75%（2024年産）を山形県がつくる果物を選びなさい。
ア もも イ 西洋なし ウ おうとう（さくらんぼ） _____
- (5) 川が山地から平地に出る所にできる、水はけのよい扇形の土地を何とといいますか。 _____
- (6) 岩手県で、農業産出額の約57%（2024年）をしめる部門を選びなさい。
ア 米 イ 畜産 ウ 果実 _____

4 伝統行事について、次の問いに答えなさい。【6ページ】

- (1) 竿燈全体を稲穂に、提灯を米俵に見立てて、豊作を祈る祭りを選びなさい。
ア 青森ねぶた祭 イ 盛岡さんさ踊り ウ 秋田竿燈まつり _____
- (2) 東北三大祭りのうち、2024年の人出がいちばん多かった祭りを書きなさい。 _____
- (3) 人々の生活の中で受け継がれてきた祭りや行事などのうち、国がとくに大切だとして指定したものを何とといいますか。 _____
- (4) 大晦日の夜、面をかぶり、わらの衣装を着た若者が家々をまわり、怠け者をいましめる、男鹿市の行事を何とといいますか。 _____
- (5) 雪でつくった室の中に水神様をまつる、横手市の小正月の行事を選びなさい。
ア 青森ねぶた祭 イ かまくら ウ 盛岡さんさ踊り _____
- (6) 観光客をよぶもとなる自然や文化を何とといいますか。 _____

5 料理と雪国のくらしについて、次の問いに答えなさい。【7ページ】

- (1) その地域でとれる物を使い、地域の人々に受け継がれてきた料理を何とといいますか。 _____
- (2) ご飯をつぶして棒にさして焼いた物を、鳥の鍋に入れる秋田県の料理を選びなさい。
ア 芋煮 イ きりたんぼ鍋 ウ せんべい汁 _____
- (3) 夏の冷たい風で米が育ちにくかった地域に根づいた、小麦や雑穀を粉にして食べる食べ方を何とといいますか。 _____
- (4) 大根を囲炉裏の上でいぶして干してつくる、秋田県の保存食を選びなさい。
ア いぶりがっこ イ ひつつみ ウ はらこ飯 _____
- (5) 国が法律で指定する、雪がとくに多い地域を何とといいますか。 _____
- (6) 母屋と馬屋が1つにつながったL字型の家を何とといいますか。 _____

確認問題 ③ 伝統産業・三陸の漁業・記憶の継承

答えと解説は17・18ページ（9枚目の紙）にあります。【 】は、わからないときに読み直すページです。

6 伝統産業とその変化について、次の問いに答えなさい。【8・9ページ】

- (1) 国が指定した、昔からの技術や原料で主に手作業でつくる、ふだんの生活で使う物を何とといいますか。 _____
- (2) 原料の砂鉄や、木炭にする木が豊富だった岩手県盛岡市などでつくられる、鉄の器を選びなさい。
ア 南部鉄器 イ 大館曲げわっぱ ウ 樺細工 _____
- (3) 農作業がひまになる時期を何とといいますか。 _____
- (4) 国の指定する工芸品の全国の生産額は、1998年度から2017年度で、約何分の1になりましたか。
ア 約2分の1 イ 約3分の1 ウ 約10分の1 _____
- (5) 産地で長く仕事をしてきた職人の中から、試験で認められた人で、後継者を育てる役目がある人を何とといいますか。 _____
- (6) 冬など農作業の少ない時期に、家をはなれて都市などで働くことを何とといいますか。 _____

7 三陸の漁業について、次の問いに答えなさい。【2・10ページ】

- (1) 寒流と暖流が出会い、混じり合う所を何とといいますか。 _____
- (2) 三陸の沖で出会う2つの海流のうち、寒流を選びなさい。
ア 黒潮（日本海流） イ 親潮（千島海流） _____
- (3) 三陸海岸の宮古市より南に続く、出入りの複雑な海岸を何とといいますか。 _____
- (4) 魚や貝・海藻を、いけすやいかだなどで人の手で育てて出荷する漁業を何とといいますか。 _____
- (5) 宮城県が全国の約78%（2024年）をしめ、全国1位のものを選びなさい。
ア ぎんざけ イ かき ウ ほたて _____
- (6) 2024年の水揚げ量の全国順位が、次の3つの港のうちでいちばん高い港を選びなさい。
ア 八戸 イ 気仙沼 ウ 石巻 _____

8 記憶の継承について、次の問いに答えなさい。【11ページ】

- (1) 2011年3月11日に起きた地震と、その津波による大きな災害を何とといいますか。 _____
- (2) 岩手県宮古市の姉吉地区にある大津浪記念碑に刻まれている教えを選びなさい。
ア 「此処より上に家を建てるな」 イ 「海の近くに集まって家を建てよ」 ウ 「此処より下に家を建てるな」 _____
- (3) 過去の自然災害の規模や被害を伝える石碑やモニュメントで、2019年に地図記号がつくられたものを何とといいますか。 _____
- (4) 災害で被害を受けた建物を残し、教訓を伝える物を何とといいますか。 _____
- (5) 昭和三陸地震の津波が起きた年を選びなさい。
ア 1896年 イ 1933年 ウ 2011年 _____

覚えることの一覧（何も見ずに書けるか、紙でかくして確かめよう）

6県と数（1ページ）

青森県（青森市）・岩手県（盛岡市）・宮城県（仙台市）・秋田県（秋田市）・山形県（山形市）・福島県（福島市）。面積は全国の約18%、人口は約807万人（2025年。全国の約7%）。6県とも人口が減った（2020年→2025年）。秋田県の65歳以上の割合は40.0%で全国1位（2025年）。仙台市は東北地方でただ1つの人口100万人をこえる市。東北新幹線（2010年に新青森まで全線）と東北自動車道（1987年に全線開通）。

地形と気候（2・3ページ）

奥羽山脈・出羽山地・北上高地・盆地・北上川・最上川・庄内平野・仙台平野・三陸海岸（宮古市より南がリアス海岸）・白神山地（世界自然遺産）。冬は日本海側に雪（北西の季節風）・夏の太平洋側にやませ（冷たくしめった北東の風）・冷害・作況指数（1993年は青森28・岩手30・宮城37）。

農業（4・5ページ）

東北6県の米は全国の約28%（2025年産）・銘柄米・品種改良・ひとめぼれ（1991年に登録）。扇状地と果樹・りんご（青森県）・おうとう=さくらんぼと西洋なし（山形県）・もも（福島県）・畜産（岩手県）。

伝統行事と生活（6・7ページ）

伝統行事・東北三大祭り（青森ねぶた祭・秋田竿燈まつり・仙台七夕まつり）・重要無形民俗文化財・ナマハゲ・かまくら・観光資源。
郷土料理（きりたんぼ鍋・芋煮・はらこ飯・せんべい汁・ひつまみ）・粉食・保存食（いぶりがっこ）・豪雪地帯・曲り家。

伝統産業と工業（8・9ページ）

伝統的工芸品・地場産業・南部鉄器・大館曲げわっぱ・樺細工・奥会津編み組細工・農閑期と副業。
生産額は約3分の1に（1998年度→2017年度）・伝統工芸士・グローバル化（南部鉄器が海外へ）・出稼ぎ・工業団地と電子部品の工場。

三陸の海と記憶の継承（10・11ページ）

潮目（親潮と黒潮が出会い、混じり合う所）・リアス海岸・養殖業（ぎんざけ・かき・わかめ・ほたて）・石巻・気仙沼・八戸。
東日本大震災（2011年3月11日）・津波・明治三陸地震（1896年）と昭和三陸地震（1933年）・大津浪記念碑（「此处より下に家を建てるな」）・自然災害伝承碑（2019年に地図記号）・震災遺構。

合言葉（1～12ページ）

6県で日本の約2割の広さ、人口は約15人に1人／背骨は奥羽山脈、間に盆地、海岸は三陸／冬は日本海側に雪、夏は太平洋側にやませ／寒さとたたかい、品種で守る東北の米／青森りんご、山形さくらんぼ、岩手は畜産／祭りに願う、米の豊作／米と雪とやませが、料理と家の形を決めた／地元の原料と冬の手仕事、伝統の技に／伝統の技を、新しいデザインで世界へ／親潮と黒潮が出会う潮目、湾では養殖／石碑と遺構で、津波の教えを次の世代へ／きびしい自然の中のくふうが、生活・文化になって受け継がれる

確認問題の答えと解説

1【1・2ページ】

- (1) **奥羽山脈**
東北地方のまん中を南北に連なり、太平洋側と日本海側に分ける。【2】
- (2) **北上川**
太平洋側を南に流れ、石巻湾などに注ぐ。長さ249kmで「東北第一の大河」。【2】
- (3) **最上川**
酒田市で日本海に注ぐ。日本三大急流の1つ。【2】
- (4) **庄内平野**
最上川の下流の、日本海側にある平野。【2】
- (5) **三陸海岸**
太平洋ぞいにのびる約250kmの海岸。宮古市より南がリアス海岸。【2】
- (6) **仙台市**
約110万人（2025年の速報）で、東北地方でただ1つの100万人をこえる市。【1】
- (7) **イ**
白神山地は、ブナの原生的な森が1993年に屋久島とともに世界自然遺産になった。出羽山地・阿武隈高地は世界自然遺産ではない。【2】

2【3ページ】

- (1) **やませ**
夏に太平洋側へ吹く、冷たくしめった北東の風。【3】
- (2) **冷害**
気温が上がらず、米などが育たない災害。【3】
- (3) **ウ**
平年を100として表した数が作況指数。【3】
- (4) **ア**
表で、太平洋側の岩手30・宮城37が低く、日本海側の秋田83・山形79は高い。太平洋側の県ほど低い。【3】
- (5) **イ**
冷たくしめった風は、東北地方のまん中の山脈にさえぎられる。北西の季節風は冬の風。【3】

3【4・5ページ】

- (1) **銘柄米（ブランド米でもよい）**
産地と品種の名前をつけて売られる米。【4】
- (2) **ア**
1981年から寒さに強い品種づくりが始まり、1991年に登録された。ササニシキより寒さにはつきり強い。【4】
- (3) **イ**
りんごは約61%で1位（2024年産）。ももは2位で約27%。【5】

- (4) **ウ**
おうとう（さくらんぼ）は約75%で1位。西洋なしは約70%。【5】
- (5) **扇状地**
土砂が積もってできた扇のような斜面で、水はけがよく果樹園に向く。【5】
- (6) **イ**
畜産は約57%（2024年）。米は約27%。【5】

4【6ページ】

- (1) **ウ**
竿燈全体を稲穂に、提灯を米俵に見立てて五穀豊穡を祈る。【6】
- (2) **仙台七夕まつり（仙台七夕でもよい）**
約204万人（2024年）で、三大祭りでいちばん多い。【6】
- (3) **重要無形民俗文化財**
国がとくに大切だとして指定した祭りや行事など。【6】
- (4) **ナマハゲ（男鹿のナマハゲでもよい）**
大晦日の夜、若者が家々をまわり、怠け者をいましめる。【6】
- (5) **イ**
雪の室に水神様をまつる小正月の行事。青森ねぶた祭・盛岡さんさ踊りは、雪の室の行事ではない。【6】
- (6) **観光資源**
東北三大祭りは、地域の大切な観光資源。【6】

5【7ページ】

- (1) **郷土料理**
その地域でとれる物を使い、受け継がれてきた料理。【7】
- (2) **イ**
ご飯をつぶして棒にさして焼いた物を鳥の鍋に入れる。芋煮は山形県、せんべい汁は青森県。【7】
- (3) **粉食**
冷たい風で米づくりがむずかしい地域では、せんべい汁・ひつつみなど、小麦や雑穀を粉にして食べた。【7】
- (4) **ア**
日照が短く乾かないので、囲炉裏の上でいぶして干した。ひつつみは小麦の料理、はらこ飯はサケの料理。【7】
- (5) **豪雪地帯**
国が法律で指定する、雪がとくに多い地域。【7】
- (6) **曲り家（南部曲り家でもよい）**
母屋と馬屋が1つにつながったL字型の家。【7】

6【8・9ページ】

(1) 伝統的工芸品

国が指定した、昔からの技術や原料で主に手作業でつくる、ふだんの生活で使う物。【8】

(2) ア

原料の砂鉄や木炭にする木が豊富だった。大館曲げわっぱは秋田杉、樺細工はヤマザクラの樹皮。【8】

(3) 農閑期

雪の多い東北地方では、冬が農閑期になる。【8】

(4) イ

約2,784億円から約927億円へ減った。927÷2,784は約0.33で、約3分の1。【9】

(5) 伝統工芸士

試験で認められた職人で、後継者を育てる役目がある。【9】

(6) 出稼ぎ

農作業の少ない冬などに、都市などで働くこと。【9】

7【2・10ページ】

(1) 潮目

寒流と暖流が出会い、混じり合う所。【10】

(2) イ

親潮（千島海流）が寒流、黒潮（日本海流）が暖流。【10】

(3) リアス海岸

山地が海にしずみ、谷だった所に海水が入りこんでできた海岸。宮古市より南に続く。【10・2】

(4) 養殖業

いけすやいかだなどで人の手で育てて出荷する漁業。【10】

(5) ア

ぎんざけは宮城県が約78%で1位。かきは2位、ほたては青森県で2位。【10】

(6) ウ

石巻が7位、気仙沼が9位、八戸が10位（2024年）。【10】

8【11ページ】

(1) 東日本大震災

2011年3月11日に起きたマグニチュード9.0の地震と、大きな津波による災害。【11】

(2) ウ

姉吉地区の大津浪記念碑の教え。この教えを守り、東日本大震災で家の被害がなかった。【11】

(3) 自然災害伝承碑

過去の災害の規模や被害を伝える石碑やモニュメント。2019年に地図記号がつくられた。【11】

(4) 震災遺構

被害を受けた建物を残して教訓を伝える物。【11】

(5) イ

昭和三陸地震は1933年。1896年は明治三陸地震、2011年は東日本大震災。【11】